

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年6月28日

【評価実施概要】

| | |
|-------|---|
| 事業所番号 | 1174600443 |
| 法人名 | 有限会社アートコーポレーション |
| 事業所名 | さくらホーム |
| 所在地 | 〒366-0801 埼玉県越谷市上野台104-1 (電話) 048-575-0695 |

| | |
|-------|---|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター |
| 所在地 | 〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ |
| 訪問調査日 | 平成20年6月16日 |

【情報提供票より】(平成20年5月1日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|------------|---------------------------|------|
| 開設年月日 | 平成15年11月1日 | | |
| ユニット数 | 2 ユニット | 利用定員数計 | 17 人 |
| 職員数 | 15 人 | 常勤 9人, 非常勤 6人, 常勤換算 13.2人 | |

(2) 建物概要

| | |
|------|----------------------|
| 建物構造 | 木造造り 2階建ての1階～2階部分 |
|------|----------------------|

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|---------------------|----------|----------------|--------------|
| 家賃(平均月額) | 60,000 円 | その他の経費(月額) | 15,000円 + 実費 |
| 敷金 | 無 | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 無 | 有りの場合 償却の有無 | 有 / 無 |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ 円 |
| または1日当たり1,300円 | | | |

(4) 利用者の概要(平成20年5月1日現在)

| | | | | | |
|-------|-----------|------|------|----|------|
| 利用者人数 | 17 名 | 男性 | 7 名 | 女性 | 10 名 |
| 要介護1 | 5 名 | 要介護2 | 4 名 | | |
| 要介護3 | 4 名 | 要介護4 | 3 名 | | |
| 要介護5 | 1 名 | 要支援2 | 0 名 | | |
| 年齢 | 平均 80.5 歳 | 最低 | 56 歳 | 最高 | 91 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|----------------------|
| 協力医療機関名 | あねとす病院、今井医院、上野台クリニック |
|---------|----------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者と職員が共に考えた理念を軸に、職員は利用者に関わりを持って接し、逆に利用者からも思われて、お互いに元気を与え合う関係作りを基本にしている。ホームは思いを共有できる職員で構成されるように運営している。利用者は明るく活力があり、表情も柔らかい。利用者本位のケアと本人の思いを実現できるような関わり合いを目指し支援しているアットホームな雰囲気のあるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|------|--|
| 重点項目 | <p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の改善課題について話し合いを持ち、共有している。居室やトイレ等場所間違いに関することや、夜間時における廊下の照明への配慮等、課題に対して改善に取り組み、評価を日々のケアサービスの質の向上に活かしている。</p> |
| | <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>事業所の代表者をはじめとして、管理者や職員が評価の意義等について話し合い、振り返りの機会を持ち、評価を活用していこうという前向きな姿勢で取り組んでいる。</p> |
| 重点項目 | <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議では、さくらホーム利用者の生活状況を報告している。また、現在取り組んでいる内容や課題について、意見やアドバイスをいただけるよう働きかけをしているが、意見が少なく、サービス向上に活かすまでには至っていない。</p> |
| 重点項目 | <p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>さくら便りの発行でホームの様子を知っていただき、面会時には必ず家族に声かけをしている。また、毎月請求書と一緒に一人ひとりの写真や健康状態、暮らしぶりを伝えるお手紙を同封している。年2回実施される家族会ではアンケートを行っているが、時にはアンケート用紙を同封することで、それらを運営に反映させている。</p> |
| 重点項目 | <p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の自治会に加入して、地域ごみゼロ活動に利用者と共に協力したり、地域行事の夏祭り等へも出かけている。近隣の方々もホームの運営推進会議に参加して下さっており、今後さらなる連携を目指している。</p> |

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|---|---|-------|--|
| . 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 職員会議等で幾度も協議を重ねた結果、理念が作り上げられた。職員の考えや意見を反映させている理念は、額に入れ、玄関・事務所・居間に掲示している。 | | 基本方針の一部を本文の中に組み込み、地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていく地域密着型サービスとしての役割を目指し、地域との交流を重視した表現となることを期待したい。 |
| 2 | 2 | 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | ホーム内部での新任研修時には、まず最初に理念を説明している。管理者はじめ職員は、理念に共感し、共有できることが大切であると認識し、日々実践を図っている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 新興住宅地の一角にあり、地域付き合いの薄い土地柄であったが、ホームからの働きかけにより、自治会から受け入れられ、夏祭りに参加したり、最近は利用者と共にごみゼロ運動等、地域行事にも積極的に出て行き、良い交流関係ができてきた。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 運営者、管理者、職員は、職員会議を通じ評価についての理解を共有している。なお、前回の外部評価についての改善指摘事項については、改善済みである。 | | |
| 5 | 8 | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている | 利用者、家族代表、自治会長、老人会会長、赤十字元病院長(裏隣)ホーム職員等が集まり、2か月に1回運営推進会議を実施している。会議ではホームの状況報告や話し合いをしているが、意見が少なくサービス向上に活かすまでには至っていない。 | | 現在の状況に加え、報告や提案などの働きかけをして意見を吸い上げ、サービスの向上に具体的に活かせるような働きかけをしていくことが期待される。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|----|---|---|-----|----------------------------------|
| 6 | 9 | 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 月1回、管理者が市役所に行き、さくらホーム担当者と情報交換している。3か月に1回は市町村担当者の訪問もあり、協働関係を作っている。市の方針として、運営推進会議は市町村担当者でなく、地域包括支援センターの職員が参加している。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている | 家族等の訪問時に必ず声かけをし、話を聞くようになっている。また、毎月個別に利用者それぞれの写真と、暮らしぶりの様子を記入したお手紙を郵送し、健康状態や小遣いの明細を同封して報告している。 | | |
| 8 | 15 | 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 年2回、家族会においてアンケートを実施している。家族の面会時には必ず声かけをして、意見を聞くようになっている。また、月1回の請求書郵送時に、毎回ではないもののアンケート用紙を同封して、それらを運営に反映させている。 | | |
| 9 | 18 | 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 利用者家族への信頼を築くために、馴染みの職員が対応できるように、賃金や処遇の改善で離職減に取り組んでいる。職員が変わる場合は、利用者との信頼と協力体制に配慮し、工夫している。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 年3回、個人面談で話し合いの機会を持つとともに、勤務年数による等級別研修実施のほか、本人希望も含めて、外部研修などなるべく受講できるように年間計画に取り組んでいる。 | | |
| 11 | 20 | 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム協議会の一員として、研修や交流会への参加やネットワークによる情報交換等、交流を通じサービスの向上に向けた取り組みをしている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|----|--|--|-----|-----------------------------------|
| .安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 本人の生活歴等から、興味を持つものを持ってきてもらったりして、ホームの雰囲気や職員に慣れていただけよう、職員と共に工夫や配慮をしている。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 介護する側される側の立場関係でなく、対等であることを徹底し、できることは明るく楽しくやっていたり教えてもらったりすることで、共に支えあう関係を築いている。 | | |
| .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ホームは家庭的であり、利用者本位のかかわりの中で、利用者によく声をかけ、伝わってくる思いを汲み取り、利用者の意向の把握につなげている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 本人や家族には、日頃のかかわりの中で思いや意見を聞くとともに、事業所外の関係者の意見も含めて、月1回ミーティングの場を中心にした職員の情報交換や話し合いの中で、それらを反映した計画を作成している。 | | |
| 16 | 37 | 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 6か月に1回の見直しを基本としているが、月1回のカンファレンスで職員同士の情報交換の場を持つように努めている。必要に応じて本人、家族、関係者と話し合い、現状に即した計画の見直しをしている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|--|---|-----|---|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 身寄りが遠方であったり、いなかったりする方もおり、入院の面会、受診、衣類の交換等、状況に応じて柔軟に支援している。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居前からのかかりつけ医を希望の方については、そのまま継続していただき、希望の医療機関をかかりつけ医として関係を築いている。特にない場合には、さくらホームの協力病院(24時間対応)の受診支援をしている。 | | |
| 19 | 47 | 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 重度化や終末期に向け、平成18年4月から職員と家族会にアンケートをとり、話し合いの機会を持ったところであり、具体的にはこれから始める段階である。職員と家族には共通して、その時になってみないとわからないという意見が多く、現在はできることをやっている状況である。 | | 本人、家族、関係者全体で話し合いを重ね、方針を統一を図り、全員で共有していくことが望まれる。終末期の対応について検討し、これから積極的に煮詰めていくことを期待したい。 |
| . その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 人権の尊重やプライバシーを守ることを大切にし、利用者と話をするときには、個室できるように心がけている。田舎と都会の違いなど地域性があるため、それぞれに応じた対応をしている。 | | |
| 21 | 52 | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 中には皆と行動を共にすることを好まず部屋に居ることが好きな利用者もいるが、無理強いはいしない。職員会議等で話し合い、本人のペースや希望を優先して利用者に合わせているようにしている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|--|--|-----|---|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 準備から片付けまで手伝ってくれる利用者には、積極的に手伝ってもらっている。職員も食事を共にして、食後は利用者全員が食卓上のお盆に自分の食器を重ねて載せ、片付けに参加するなど、利用者と職員が一緒に作業している。 | | |
| 23 | 57 | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 1日おきの入浴を基本としているが、希望者には個別に対応しており、中には毎日入浴を楽しむ方もいる。工夫として一番風呂を希望する方については、一度風呂水を抜いて一番風呂として支援することもある。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 習慣や生活歴の中から、絵画、俳句、カメラ等、喜びや楽しみとなる役割を探し見出している。調理の手伝いは人気があるため順番制を取り入れ、希望に添えるように配慮している。 | | |
| 25 | 61 | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 雨天の日以外は散歩を日課としている。散歩をしながら花を見たり挨拶することで、近所や地域の人々と顔馴染みになっている。また、利用者の希望でドライブしたり、公園に出かけ楽しんだりしている。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 一般の家庭により近い状態をモットーとしている。利用者一人ひとりの行動を把握し、職員がきめ細かくキャッチすることで、日中は鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。夜には鍵をかけている。 | | |
| 27 | 71 | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 2か月に1回、利用者と職員が一緒になって参加し、ホーム独自のマニュアルに沿ってホーム全体で避難訓練を実施している。 | | 地域との関係について、自治会や運営推進会議等で避難訓練への協力と参加を呼びかけることが望まれる。消防署指導の下、避難経路の確認や消火器の使い方等の訓練実施とともに地域資源への働きかけや取り組みを期待したい。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|--|---|-----|-----------------------------------|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一人ひとりに対し、食事と水分の摂取量を記録して、一日を通して必要量が確保できるように支援している。食事は利用者にとって最大の楽しみであるというホームの考えがあり、たっぷりの量を、おいしく食べてもらえるように力を入れている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 建物の構造上広さに制約はあるが、明るく広く取られた窓のスペースからは風が吹き抜けている。皆が集まる居間兼食堂には、家族が持ってきてくれた百合が飾られている。窓際にはポット、湯飲み、茶碗、茶筒等が準備しており、安心感のある工夫がされている。 | | |
| 30 | 83 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ベッド、箆笥、床頭台は施設備品である。仏壇、机、椅子など、長年使用し愛着のある物品や鉢物を部屋に置いたり、安心して過ごせるように個別に応じた工夫をしている。 | | |